

今号のトピックス ▶世界のネット創設者・ネットの中毒性自覚 ▶テキスト進捗状況

## フェイスブック初代 CEO ショーン・パーカーも アップル創設者スティーブ・ジョブズも テックフリー教育

家庭や学校に IT 機器があふれている昨今、長時間のスマホ使用や SNS への没頭が、子どもにどんな悪影響を及ぼすか心配する親は多いだろう。そんな世相を反映してか、世界のテクノロジーの中心地シリコンバレーでも、デジタル的要素を一切排除した「テックフリー教育」が主流になっているという。99%の親が「テクノロジーに不安」。「クーリエ・ジャポン」(講談社が運営する会員制ウェブメディア)からの引用です。

▶確かに、いま世の中に出回っている IT 機器やサービスは、人が容易に依存するように意図的に設計されている。グーグルの元「製品哲学担当者」であるトリストラン・ハリスは、アップル、グーグル、フェイスブック、ユーチューブ、スナップチャット、ツイッター、インスタグラムといった誰もがひとつは確実に世話になっていそうな企業の製品、サービスが我々の時間を意図的に“ハイジャック”するよう設計されていると米誌「ワイアード」に激白。

フェイスブックの初代 CEO ショーン・パーカーも、自分を含むクリエイターたちが同サービスに中毒性を持たせるようにデザインしたと認め、次のように発言している。「(フェイスブック)が我々の子ども世代の脳にどんな影響を及ぼしているかは、神のみぞ知る」

だが、こうした疑問を持つ人もいよう。ローテックな教育を受けた子どもたちは、AI やロボティクスといった IT の重要性が増すこの世界で将来、取り残されたりはしないのだろうか？。TED で 5000 万回以上の視聴回数を記録した「学校教育は創造性を殺してしまっている」のプレゼンで知られる教育学者のケン・ロビンソンは、長年テクノロジーと教育の関係を研究してきた。

ロビンソンは、近年、家庭や学校で「遊び」の機会が失われているが、遊びこそ教育の重要な要素だと主張する。遊びを通じた自然な学びが、子どもたちの創造力や問題解決力を育むのだという。

テクノロジーの有害性から子どもを遠ざけようと一番躍起になっているのが、そのテクノロジーを生み出している張本人たちというのは皮肉な話だ。しかもそれを実行できる特権を持つのが、テックフリー教育に高い学費を払える彼らだという現実にも釈然としないものを感じる。とはいえ、子どもの将来を考えると、テクノロジーとはある程度の距離を保つことが必要だと言えるだろう。(ここまで記事より一部抜粋)

▶2011 年に亡くなられたアップルの創設者「スティーブ・ジョブズ」が自分の子どもに iPhone や iPad を使わせなかった話は有名です。彼もテックフリー教育を我が子には行っていたわけです。

▶まさにこれからの日本を予見するような記事だと思いますが、我々庶民はあきらめるしかないのか？と思わされます。しかし、まずは「知ること」が行動への第一歩であり私たちが動く事の意味と重要性があると思います。(伊藤理恵)

▶デジタル教科書がこの 4 月から解禁。教科書ともなれば長時間は避けられない。このタブレットによる健康被害、また、小児からタブレットにならさせてその後スマホデビュー。電子教科書が文字教科書より有効であるという科学的データが示されないままの導入に憤りを覚えます。導入推進の皆様の家庭はやはり、「テックフリー教育」でしょうか。(大谷良光)

### テキスト編集 進捗状況

今 THInet 内容開発委員会では、『スマホ・ネットで蝕まれる子どもの脳・心と体～ネットリスク啓発者と教師・保護者のテキスト～』(仮称)を編集しています。当面自主出版で発刊し、THInet の講習会の副読本、教員免許状更新講習会のテキスト、各種講演での販売等で、講演や講習を聞かれた方が、その後自らの授業や周りの方に伝えるための知識として利用して頂く予定です。試行版 7 月。第 1 版 9 月を発刊予定。